

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ

豊田市民芸館
Toyota City Folk Craft Museum

豊田市民芸館

2026 年度、豊田市民芸館では下記の展覧会を開催する予定です。

日本や世界の優れた「ものづくり」に新たな光をあてる展覧会を通じて手仕事の美しさや力強さを紹介し、日常の暮らしに宿る美しさを追求する民芸の価値や魅力を発信していきます。

ふたつのコレクション展

「芹沢銈介の仕事」・「筆と言葉 杉本健吉と本多静雄の交流」

2026年2月7日(土)～5月24日(日)

主催：豊田市民芸館



上：芹沢銈介《ぼんどり図四曲屏風》 豊田市民芸館蔵

民藝運動を代表する作家のひとりであり、「型絵染」を確立した人間国宝・芹沢銈介。生誕 130 年を機会に、「芹沢銈介の仕事」と題し、館蔵の芹沢作品の中から優品を厳選して紹介します。

また、同時開催として「筆と言葉 杉本健吉と本多静雄の交流」と題し、生誕 120 年を迎えた名古屋市出身の画家・杉本健吉の絵画をはじめ、杉本が手掛けた本多主催の茶会や創作狂言にまつわる作品など、二人の深い交流と文化活動に焦点をあてた展示を行います。

下：杉本健吉《社頭蓮池》1979年 豊田市蔵

アーツ・アンド・クラフツと民芸

2026年6月20日(土)～8月30日(日)

主催：豊田市民芸館



ウィリアム・モリス 《格子垣》 Photo © Brain Trust Inc.

19世紀後半にイギリスで始まったアーツ・アンド・クラフツ運動は、近代化の時流が生んだ先駆的な工芸運動です。アーツ・アンド・クラフツに始まる工芸への眼差しは、その後世界で同様の思想や運動が起こり、現代の私たちの生活様式や美意識に影響を与えています。第 1 部では、アーツ・アンド・クラフツ運動から生まれた工芸品をとおして、イギリスやアメリカなどで「生活に必要なものこそ美しくあるべき」と説いたウィリアム・モリスの眼差しを紹介し、第 2 部では、100年にわたって受け継がれた「民藝思想」を継承する工芸品をとおして、柳宗悦の「日常にこそ美が宿る」という思想が漂う作品を紹介します。

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ

豊田市民芸館
Toyota City Folk Craft Museum

豊田市民芸館

一挙公開 棟方志功

I 期 2026年9月26日(土)－11月23日(月・祝)

II 期 2026年11月28日(土)－2027年1月31日(日)

主催：豊田市民芸館



日本民藝館は、棟方志功と柳宗悦が出会った1936年から柳が没する1961年までの25年間で制作された版画のほぼ全てを所蔵しています。棟方は初摺りの作品を2組ずつ柳に届けていて、その多くが柳の装案により掛け軸や屏風に仕立てられました。今回は、日本民藝館所蔵の棟方作品を「言葉のちから」、「敬愛のしるし」、「板のいのち」、「神仏のかたち」の4つのテーマに分類し、2期に分けて全容を紹介します。

棟方志功 《鐘溪頌 倭桜柵》1945年 日本民藝館蔵

(仮) これからの豊田市民芸館優品展

2027年2月27日(土)－5月23日(日)

主催：豊田市民芸館



豊田市民芸館は開館当初、実業家で古陶磁研究家であった本多静雄氏(1898—1999)の蒐集品を中心に展示を行い、その後、幅広い視点で衣食住にまつわる民芸資料の収集を行ってきました。本展では、開館後40年にわたり民芸館が収集してきた民芸資料を概観するとともに、その中から今後、豊田市民芸館の代表的コレクションとして発信していくべき資料を厳選して紹介します。また、民芸の森10周年と連動し、民藝への新たなまなざしを感じさせる特集展示を行います。

《型染鶴亀文三河万歳衣裳》19世紀 豊田市民芸館蔵